

平成30年 4月 6日

平成30年度始業式 校長あいさつ

この度の人事異動により、藤代紫水高校から参りました校長の田村和浩と
いいます。

私は、学校現場から離れて県の教育委員会に10年ほど在職し、主に教育相
談（カウンセリング）や文化財、公文書管理等の仕事をしてきました。取手
市内には、竜禅寺三仏堂や旧取手宿本陣染野家住宅などの国指定・県指定文
化財建造物が所在しており、県教委時代は足繁く訪れていました。この地域
との縁を改めて感じているところです。昨年藤代紫水高校に赴任しましたが、
1年で本校に異動になりました。

平成30年度の始業式にあたり、本校に着任して、私が感じていること、ま
た皆さんにお願いしたいことなどをお話ししたいと思います。

3月、引き継ぎのため本校を訪れました。進路実績や各種部活動での活躍
が大きく掲げられていて、文武両道の元気のある学校だなという印象を受け
ました。

自転車競技部、ライフル射撃部は来年開催される「いきいき茨城ゆめ国体」
の強化指定校に指定されており、更なる活躍が期待されます。この機会は、
本校発展にとって大変大きなチャンスと考えます。皆さんの積極的な取り組
みに期待します。

今日は、皆さんに、これからの1年間、私がお願いしたいことを2点お話
します。

1点目は、私の好きな「Where there's a will, there's a way.」について。

「意志あるところ 道は開ける」という意味ですが、物事を進めるため
には、まず、小さくてもいいですから心に灯火（ともしび）を灯すこと
です。私はこの言葉が大好きで、前の学校の生徒さんにもずっと呼びかけて
来ました。皆さんの身近な例でいえば、こういうことです。

先日、テレビで放映された「NHKのど自慢 グランドチャンピオン大会」
を見ました。そこに、岩手県立水沢高校音楽部の皆さんが出場していました。

かつては、部員が50人以上在籍していたそうですが、現在7名まで減少し、
このままでは全国大会に出場できない、という危機感を抱いたそうです。そ
こで、生徒の皆さんが部員募集のために、「NHKのど自慢」に出て、部員募
集をしようということになったようです。昨年11月にあった奥州市の大会で
見事チャンピオンとなり、グランドチャンピオン大会に出場することになり
ました。

曲目は、KANさんの「愛は勝つ」。まず、現役の高校生が、この曲を選んだことに驚きました。1990年、今から約30年前のリリース。このように始まります。

「心配ないからね 君の想いが 誰かにとどく 明日はきっとある
どんなに困難で くじけそうでも 信じることを 決してやめないで」
聴きながら、涙がこぼれました。この歌詞と、彼らの置かれている状況、そして、素晴らしい歌声とハーモニーが私の心を打ちました。

部の危機的状況、「困難で くじけ」てしまいそうになった時、彼らは、「NHKのど自慢」に出場するという決断をし、それを実行しました。

後日、水沢高校に電話し、校長先生とお話させて頂きました。全国からたくさん応援メッセージが届いたそうです。私からも、とても素晴らしい時間を過ごさせていただいた旨お伝えしたところ、音楽部の生徒さんにも伝えます、とのお言葉をいただきました。部員は何名になりましたかと伺ったところ、「まだ7名です」とのことでしたが、今年度は多くの部員に恵まれるのではないのでしょうか。

生徒の皆さん、水沢高校の皆さんには、部員を増やしたいという意志がありました。そして、のど自慢グランドチャンピオン大会出場という道を開いたのです。皆さんと同じ高校生です。皆さんには、どのような意志がありますか。その意志を実現するためには、まず行動することが大事です。そしてその行動は、周囲の皆さんへの感謝などの小さな事からでもかまいません。まず行動してみましよう。

2点目は、本校の取一精神「力耕吾を欺かず」の実践です。これは、中国六朝時代の詩人、陶淵明の言葉ですが、「力耕」、すなわち田畑を一生懸命耕すこと、物事に真剣に取り組むことは、「吾を欺かず」、自分にきちん結果が返ってくるということを表しています。

楽聖ベートーヴェンは、「努力した者が成功するとは限らない。しかし、成功する者は皆努力している。」という言葉を残していますが、このことと同じです。逆を言えば、努力しなければ得るものなし、ということです。私は、この言葉を「自分プライド」と名付けようと思います。自分なりの矜持をもって物事に取り組むこと。皆さんには、今日から、この「自分プライド」の実践を心がけてほしいと思います。

最後に、本校で一生の思い出を作ってください。

以前、今年71才になる小田和正さんが、「この年になると、思い出と友達がとても大事なものになる」という話題を読んだことがあります。

私も、苦しい時などには、昔の楽しい思い出や、その時を共に過ごした仲間を思い出したりします。

一生の思い出を残せるよう、毎日を充実したものにしていましよう。